



国内

1990

4. 3—4

日本地質学会, 総会およびシンポジウム, 横浜国立大学 (学術講演会は10月に富山大学で)

4. 5—6

堆積学研究会, 春季研究集会, 神奈川県立博物館 (横浜市)

4. 6—8

日本海洋学会, 1990年度春季大会, 東京水産大学 (港区)

4. 6—8

地震学会・地球電磁気地球惑星圏学会・日本火山学会・日本測地学会・日本地球化学会・合同春季大会, 東京工業大学 (大岡山)

4. 30—5. 1

構造地質研究会, 1990年春の例会および総会, 奈良市「飛火野荘」

5. 15—5. 18

International Society for Photogrammetry and Remote Sensing, Commission IV, International Symposium on Cartographic and Data Base Applications of Photogrammetry and Remote Sensing, 筑波第一ホテル, 茨城県つくば市, 問い合わせ先: 〒171 東京都豊島区南池袋2-8-17 第一豊南ビル 日本写真測量学会 Tel. 03-984-7040

5. 21—23

物理探査学会, 平成2年度総会・春季学術講演会, 中央大学駿河台記念館 (東京都千代田区)

5. 26—28

日本分析化学会, 第51回分析化学討論会, 佐賀大学 教養部

6. 30—7. 1

日本古生物学会, 第137回例会, 瑞浪化石博物館 (岐阜県瑞浪市)

8. 21—25

1990 Western Pacific Geophysics Meeting.

AGU および国内関連学会共催, 金沢 (会場は市内公共施設), 問い合わせ先: 〒152 目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学理学部応用物理学教室 本蔵義守助教授 Tel. 03-726-1111, ext. 2341

9. 28—10. 2

Benthic Foraminifera (第4回底生有孔虫国際シンポジウム), 仙台市 問合せ先; 仙台市荒巻字青葉 東北大学理学部地質学古生物学教室 高柳洋吉教授, Tel. 022-222-1800, ext. 3419

10. 6—7

日本地質学会, 第97年学術大会, 富山大学

10. 8—12

The 6th International Symposium on Biomineralization. 小田原市アジアセンター, 問い合わせ先: 〒102 千代田区富士見1-9-20 日本歯科大学歯学部病理学教室 須賀昭一 Tel. 03-261-8311

10. 16—18

日本分析化学会, 第39年会, 名古屋工業大学

10. 29—11. 2

ISME-AI '90(International Symposium on Mineral Exploration:-The Use of Artificial Intelligence, 1990) (鉱床探査のための人工知能国際会議), 東京大学山上会館・工業技術院筑波共用講堂, 問い合わせ先: 〒107 港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル 資源・素材学会 Tel. 03-402-0541

1991

6. 9—16

第2回日ソ・同位体比地球科学シンポジウム, 東京大学 (本郷), 問い合わせ先: 東京大学理学部地球物理学教室 小嶋 稔教授 Tel. 03-812-2111, ext. 4300; Fax. 03-818-3247

1992

8. 24—9. 3

29th International Geological Congress (第29回万国地質学会議), 国立京都国際会館, 問い合わせ先: 〒305 筑波学園郵便局私書箱65 第29回IGC事務局, Tel. 0298-54-3627, Fax. 0298-54-3629

海外

1990

4. 18—20

OROGENESIS: TECTONICS IN WEST EQUATORIAL PACIFIC MARGIN (Mtg.), London. (R. Hall, Dept. Geol. Sci.,

地質ニュース 427号

University College London, Gower St., London, WC1E 6BT)

5. 6—12

PACIFIC RIM (Congress), Australia. (Aus IMM-PACRIM 90, Box 731, Toowong, Queensland 4066, Australia).

5. 16—18

GEOLOGICAL ASSOCIATION OF CANADA/MINERALOGICAL ASSOCIATION OF CANADA (Ann. Mtg.), Vancouver, B. C., Canada, (R. I. Thompson, 801-750 Jervis St., Vancouver, B. C., V6E 2A9).

5. 20—22

PACROFI III (3rd Pan-American Conference on Research on Fluid Inclusions), University of Toronto, Canada, (E. Spooner, PACROFI III, Department of Geology, University of Toronto, 22 Russell Street, Toronto, Ontario, Canada M5S 3B1).

5. 29—6. 1

AMERICAN GEOPHYSICAL UNION (Mtg.), Baltimore Md. (AGU 2000 Florida Ave. N. W., Washington,

D. C. 20009).

6. 3—6

AMERICAN ASSOCIATION of PETROLEUM GEOLOGISTS (Ann. Mtg.), San Francisco, U. S. A. (AAPG, P. O. Box 979, Tulsa, Okla., 74101).

6. 4—8

Chapman Conference on Crustal-Scale Fluid Transport, Snowbird, Utah (MMP Crustal Fluids Chapman Conference AGU, 2000 Florida Ave, N. W. Washington D. C. 20009).

6. 28—7. 3

INTERNATIONAL MINERALOGICAL ASSOCIATION (15th General Assembly), Beijing, China. (Prof. Huang Yunhui, c/o Institute of Mineral Deposits, Chinese Academy of Geological Sciences, Baiwan-zhang Road 26, Fuchengmenwai, Beijing, P. R. China)

本欄に掲載を希望される場合は地質ニュース編集委員会までご連絡ください。

読者の欄

地質ニュースが読まれるために

学術雑誌などでも、受け取って一番最初に読むところはニュースだと言う話をよく聞きます。これだけ情報量の多い時代になると、手軽に目を通せるもので世の中の動きをつかもうとするのが当然の成り行きかも知れません。

地質ニュースを定期的に購読しているわけではありませんので、多くのことは言えませんが、学術論文とは違った面白さもあって、機会があれば、目を通すようにしています。それ故に、見当違いのこともあるかも知れませんが、気づいたところを書いてみました。

1. 地質ニュースの購読者の職種、年齢構成、興味を持ったもの(事項)など、アンケートをとって見る必要がある。
2. 地質調査所の宣伝機関誌をむねとしていくなら、関連学協会とのつながりを持つ内容として、建設関連、海洋土木関連業などを含めた読者を念頭におき、“土と基礎”なみの広い内容として外部にも執筆を依頼する。
例：地質図と基盤地盤、宅地造成と地盤、地質防災と軟弱層、液状化などといったタイトル。
3. 上記の内容を、以前シリーズにされていた音波探査

講座のようなものとして、基礎から応用編まで含めて特集を組む。

4. 自然保護的な見方も意見として受け入れていく。
5. 美しい自然現象、災害などを含めたトピック写真をスライド、絵葉書として作り、教材資料にできるようにしておく。トピックについても普段から情報収集するスタッフを必要とするかも知れない
6. 巡検案内コーナーをシリーズで。
7. 地質学(地質)の歴史的な発展・変遷史など資料を収集して、社会的な地質学のニーズが、時代と共にどの様に移り変わってきたかをレビューして将来を展望する連載物や、地調略史(s. 37出版)を物語風にアレンジしたものなどがあっても良いと思う。
8. 対象を専門家、あるいは大学生(教養or専門課程)か、高校生(高学年)程度にするのか、基準となるターゲットを決めることも検討する。読者層を広げようとするならば、普及書を目指し、高校地学程度の内容にすることも考慮する必要がある。

安間 恵(川崎地質株式会社 海洋調査部)

〒143 東京都大田区大森南3-23-17

<受付：1990年1月18日>